



Design your own road

WHILLの月刊誌

WHILL MAGAZINE

2017
OCT. 10



WHILL株式会社

〒230-0045 横浜市鶴見区末広町1-1-40 横浜市産学共同研究センター実験棟F区画
WHILLコンタクトデスク TEL: 0120-062-416 (IP電話の方: 050-3085-9840)
受付時間: 9:30~17:00 (月~金曜日)
HP: <http://whill.jp/contact>





お客さまインタビュー

MASATANE MUTO

VOLUME. 22

武藤将胤さん

Model AとModel Cを併用することでより外出が楽しくなります

一般社団法人 WITH ALS 代表理事、コミュニケーションクリエイター、EYE VDJ、J-WAVE <WITH> ナビゲーターとして多方面で活動。2016年に一般社団法人 WITH ALS を立ち上げ、WHILL のシェアリングサービスを発足されました。他のALS患者にレンタルしながら、ご自身も Model A と Model C を併用しておられます。

WHILLご利用のきっかけ

2013年10月にALSを発症し、歩行が大変になってきたタイミングで、車いすを使おうと思いましたが、自分が乗みたいと思えるものがなかなか見つかりませんでした。かっこいいものに乗りたいという思いが人一倍強く、昔から自転車やスケボーなどの乗り物が大好きだったのですが、WHILLはそういった新しい乗り物に出会ったときの感覚を与えてくれました。



WHILL Model Cの気に入っているところ

Model Cは特に、後ろから見たときのフォルムと赤いLEDがかっこいいですね。妻との出かけも、小さめの車に乗せることができるので、2人で買い物を楽しむことができます。外出先で急に雨が降ってきても分解してタクシーに乗せられます。車載できるということは、日々の生活が楽になるだけではなく、突発的なトラブルにも対応できる安心感につながりますね。



WHILLが来て大きく変わったこと

WHILLに出会ったことで、以前と同じようにアクティブな生活スタイルを維持することができています。WHILLが来る前は「車いすに乗りたくない」という気持ちが大きくて、無理やり歩いて転倒してしまい前歯を折るなどの事故もありました。今まで、車いすに対して「歩けなくなったら乗るもの」というイメージがありました。しかし、乗り物としての魅力があるWHILLなら、歩くことができていても、自分らしく生活するため使い始めるという選択ができると思います。

Model AとModel Cの使い分け

Model Aは重量があって走破性が優れているので、近くのスーパーや飲食店など自宅の周辺で乗る際にはとても快適ですね。一方、Model Cはドライブで遠方に行ったり、国内外を旅行するときにその利便性を発揮します。普段は杖や介助用車いすを使っているけれど、旅行に行くなら疲れを気にせず楽しみたい、自分の意思でいろいろな場所を見に行きたい、といった人にも Model C のニーズがあると思いますね。Model A と Model C を使い分けることによって、より行動範囲が広がります。

WHILL Model C 開発秘話

STORY OF MODEL C



出先で何かあってもWHILL Smart Careで解決できる

WHILL Model C(以下、Model C)では、安心してもっと外出を楽しんでもらうための、サポートサービス「WHILL Smart Care(以下WSC)」をご用意しました。年間契約価格19,800円(税抜)で、保険、ロードサービス、スマート診断の3つのサービスを受けることができます*。今回はその内容と開発過程についてWSC開発担当に話を聞きました。

*WSCはModel Cをご購入いただいたお客様に限りご加入可能となっております。

万が一の事故やけがを補償

これまでお客様から「子どもが突然飛び出してきてけがをさせてしまったらと思い不安」、「自転車や自動車とぶつかってしまったらどうしよう」といった、避けられない状況で事故を起こしてしまうことを大きく心配しておられる声がありました。ご本人が購入を希望していくても、ご家族が強く心配されたため、購入を諦めたケースもありました。

WSCでは、Model C乗車中に起る万が一のトラブルを補償します。例えば、日常生活での偶然の事故により、ご自分がけがをしてしまったり周りの人や物に損害を与えてしまったときに、保険金が支払われます。

24時間365日全国対応のロードサービス

万が一の故障やバッテリー切れなどで、WHILLが外出先や旅行先で止まってしまうことを不安に思うお声がありました。故障などが起きないように技術面からも最善は尽くしていますが、さらにサービスの力でより大きな安心をお届けしたいと考えました。WSCでは、Model Cが外出先で動かなくなってしまった場合に、24時間365日、全国**対応でかけつけ、ご希望の場所までModel Cを搬送します。(**離島を除く)電動車いすのロードサービスは日本で初めての試みで、ロードサービス会社と協力体制を築くまでがとても大変でしたが、有意義な取り組みであることに共感してくださり、実現することができました。

NEWS

東京モーターショー2017に出展いたします。

出展ブース内では、「WHILL Model C×IoT」でパーソナルモビリティの可能性に迫ります。また、パナソニックとWHILLが共同開発した「WHILL NEXT」の自動停止等のデモもございます。最新の情報はWHILLホームページ・Facebookで順次発信していきます。

期間：10月28日(土)～11月5日(日) 月～土曜日(祝日含む) 10:00～20:00 / 日曜日 10:00～18:00
入場料：一般当日券 1,800円(税込)

◎障害者手帳をお持ちの方本人及び付添者1名(車いす利用者の場合2名まで)無料(要手帳提示)
場所：東京ビッグサイト 西4ホール TOKYO CONNECTED LAB 2017 / 小間番号:TCL06



サービス開発部 大森 元気

Model Cだからこなれたスマート診断

スマート診断では、Model Cに新たに搭載された通信機能を活用して、製品の状態をチェックします。私は以前、電機メーカーでカメラのネットワークのソフトウェア開発をしていたこともあり、WHILLでも通信機能の構築をしたいと考えていました。そこで、より確実にお客様に故障をお知らせできるように、本体の情報を検知してから、オペレーターがお客様にお電話するまでの流れを自動化し、内部の仕組みを整備しました。特に、お客様への連絡手段は「電話」にこだわりました。スマートフォンのアプリでお知らせする方が、システム作りにおいては簡単なのですが、アプリを使わないお客様も多くいることを考えて、電話で連絡するようになりました。通信機能の構築により、製品の状態をもれなく検知し、オペレーターが電話することで、故障や消耗品のお取り替えを丁寧にご案内することが可能になりました。

不安を安心に変える新たなサービスを開拓したい
今後は危険な状態に陥ることを未然に防ぐサービスや、心配している人が利用者の安全を確認できるようなサービスを開拓していくたいと考えています。例えば、危険運転検知や衝突検知です。危険運転検知は、操作の熟練度を検知して、安全運転のためにアドバイスを行うという機能です。衝突検知は、ご利用者のWHILLが何かにぶつかったときに、衝突があったことをご家族にお知らせする機能です。こういった新たな機能で、お客様がより安心して乗ることができるモビリティにしていきたいと思います。



MASAFUMI TASHIRO DESIGN ROOM